



# 日本統計学会 会報 2017.1.30

No.  
170

発行—— 一般社団法人 日本統計学会  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F  
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局  
Tel & Fax : 03-3234-7738  
編集責任——中野 純司 (理事長) / 間野 修平 (庶務理事)  
森 裕一 (広報理事) / 久保田 貴文 (広報委員)  
西塾 晴久 (広報委員)  
振替口座—00110-3-743886  
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

## 目次

- |  |  |
|--|--|
| 1. 巻頭随筆：因果・数式・日本人論文に思い及ぶこと<br>…………… 足立浩平 (大阪大学) …… 1                             | シリーズ「研究滞日記」……………橋本真太郎… 7               |
| 2. 2017年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第一報)<br>…………… 川崎能典・白石高章・谷崎久志… 3                         | 5. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集<br>…………… 中野純司… 9 |
| 3. 第11回日本統計学会春季集会のお知らせ(第二報)<br>…………… 中野純司・青木 敏・田中研太郎・<br>…………… 二宮嘉行・土谷 隆・酒折文武… 3 | 6. 第65回統計全国大会の報告…………… 岩崎 学…10          |
| 4. 特集記事<br>シリーズ「統計学の現状と今後」…………… 倉田博史… 5  | 7. 理事会・委員会報告(2016年12月17日開催) …… 12      |
|  | 8. 新刊紹介…………… 14                        |
|  | 9. 学会事務局から…………… 14                     |
|  | 10. 投稿のお願い…………… 15                     |

## 1. 巻頭随筆：因果・数式・日本人論文に思い及ぶこと

足立 浩平 (大阪大学)

巻頭を飾る随筆の依頼が私のごとき浅学に來ましたのも、実験心理学者の東山先生(立命館大学)の研究に協力させていただいた Higashiyama & Adachi (2006) の論文に対して、2016年度のイグノーベル賞(知覚賞)を受けたことによるものと察せられます。どのような随筆にするか困ったあげく、本稿を3部構成にして、最初は、受賞に際して思い及ぶこと、第2部は、それと同時期に出版された拙著の執筆時に思い及んだこと、最後に、海外の先生と共同研究する中で思い及ぶことを記します。なお、各段落が各部に対応するわけではありません。

イグノーベル賞の受賞は、もっぱら東山先生の実験研究の業績により、私は実験後の統計分析に協力しただけです。東山先生が扱われた現象は、ドイツの著名な物理学・生理学者のヘルムホルツ(1821~1894)も説明を試みたもので、簡単に解

説しますと、「股のぞき」で視野と上体を逆さまにすると、視野が平面的に見え、特に遠くの物が小さく接近して見える現象です。東山先生は、網膜像の上下に加えて上体の逆転が視覚世界を変化させることを、精巧な実験と仮説検定によって解明されました。私が協力したのは、パス解析によって上記を裏づける部分であり、対立する因果モデルに対して東山先生のモデルがよりよくデータに適合することが、AICによって示されました。

しかし、皮肉なことに、査読者がパス解析は不要な付け足しとコメントされた事を記憶しています。コメントの根底には、原因変数を実際に操作して、従属変数の変化を見る実験こそが、因果を「実演」という主張があるように推察されます。一方、パス解析は、因果までは語らない相関関係に、最もよく合った因果モデルを選択するもので、因果を「実演」しているわけではありません。

さらに踏み込んだ議論は控えて、この段落は、因果について私がよくする軽口で閉じます。「Aさんの死因は？」という問いに対して、数学や論理学といったロジックだけの世界では、「Aさんが生まれてきたから」と答えるのが良いと思われます。しかし、この答えでは、実証科学からは容赦されません。

さて、本稿の執筆依頼直前に、英文の多変量データ解析入門の拙著 (Adachi, 2016) が出版されて、ホッとしているところです。この本を書き始めた契機は、所属学部より英語授業の供出を依頼されたことです。授業嫌いながら、国際化は大切と思う私は、すぐに応じてしまいました。応諾の背後にあった目算は、別の和文の拙著 (足立, 2006) を英訳して授業する事です。しかし、この目算は、2013年10月の英語授業開始の直前に崩れました。理由は、足立 (2006) が、ユーザーに向けて、数式を使わずに「くどい和文」を多用した入門書であり、それを英訳するのは私の英語力を超えるからです。そこで思いついたのは、世界共通言語である数式を多用した資料を使えば、英作文の負荷は下がることです。さらに、これが著書になれば一石二鳥ということで、自称「行列愛好家」として、行列代数と同時に多変量データ解析も学べるという売り込みの拙著を書いた次第です。

前段に言及したように、数式は世界共通の言語である点で、英語論文の執筆には有難いものでもかかわらず、世間の多くの人が数式を嫌う理由は、難解だからと答えれば自明に過ぎず、さらに踏み込むと、数式が情緒的要素を持たないことが一因というのが自論です。私たちが日常に使う言語は、形容詞や接続詞などがあって、情緒を喚起してくれます。例えば、「3万円の損をする……しかし、……」のように「しかし」が入ると、それ以降はポジティブなことだと予期できて、文章が円滑に読解できます。つまり、情緒は「情報処理の潤滑油」と考えられます。それが無い数式は、効率的に頭に入ってこないわけです。しかし、数式を使う統計学の論文にも、情緒的要素はあります。特に、新たな解析法を提案する論文などは、

提案法の売り込みのシナリオが大切で、それは数式以外の文の情緒的要素が深く関わると思えます。これ以上「情緒と論文」の議論はできないのですが、関連する話を次に披露します。

ここ6年間ほど、欧州の先生と共同研究していますが、その中で、日本と西洋の違いを感じさせられます。共同研究者は数学出身ですが、数式に関する議論は、文学部 (心理学専攻) 出身の私の方がむしろ熱心になります。一方、共同研究者からは、論文の文章をシンプルにして説得力をもたせるべきと、文学部出身の私が文章の指導を受けます。この相違は、出身専攻ではなく、日本と西洋の違いによると思えてきます。私ども日本人は、数式の細部に関わる「正確さ」が命であるのに対して、西洋では「説得性」、そして、人を説得させるにはシンプルなメッセージが重要という図式です。この事は、共同研究を始める前から承知していました。それは、国際誌への投稿論文の査読コメントを通してであり、学生にも説得的なシナリオが大切と指導してきました。それなのに、今なお欧州の共同研究者から指摘を受ける自分を見て、生まれ育った文化から抜け出すのは大変なことと実感している次第です。

最後にイグノーベル賞の話に戻ると、私が受賞させていただいた部門は「知覚賞」で、「統計学賞」ではありません。イグではない本家のノーベル賞に数学賞はなく、経済学賞などを除けば、統計学そのものの受賞は難しいですが、イグノーベル賞は年ごとに賞の部門を増やしていると察せられ、「統計学賞」も期待できます。この部門で若い方が受賞されることを、楽しみにしております。

足立浩平 (2006). 多変量データ解析法—心理・教育・社会系のための入門—. ナカニシヤ出版.  
Adachi, K. (2016). Matrix-based introduction to multivariate data analysis. Springer.  
Higashiyama, A. & Adachi, K. (2006). Perceived size and perceived distance of targets viewed from between the legs: Evidence for proprioceptive theory. *Vision Research*, 46, 3961-3976.

## 2. 2017年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第一報）

### 2017年度統計関連学会連合大会

運営委員会委員長 川崎能典（統計数理研究所）

実行委員会委員長 白石高章（南山大学）

プログラム委員会委員長 谷崎久志（大阪大学）

#### 2.1 2017年度統計関連学会連合大会について

2017年度統計関連学会連合大会は、応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の共催により、2017年9月3日（日）から6日（水）まで開催いたします。会場は南山大学名古屋キャンパス（<http://www.nanzan-u.ac.jp/Information/access.html>）で、初日の9月3日はチュートリアルセッションおよび市民講演会を、9月4日から6日までは、本大会として一般講演や企画セッション、コンペティションセッション、ソフトウェアセッションなどの開催を予定しています。

#### 2.2. 一般講演や大会参加について

一般講演や参加の事前申込、報告集原稿提出は今後開設するホームページ上で行います。一般講

演申込の締め切りを5月下旬（予定）とし、それ以降に、報告集原稿提出および参加の事前申込の締め切りを設定いたします。発表を計画されている方は予定に組み込んでいただければ幸いです。確定した期日や具体的な企画は、2017年3月上旬ごろに発行予定の第二報でお知らせいたします。

#### 2.3. 各種企画について

本大会においても従来の大会と同様に、チュートリアルセッション、市民講演会、企画セッション（4月上旬に締め切りを設定予定）、コンペティションセッション、ソフトウェアセッションなどを予定しています。何かご意見やご提案をお持ちの方はプログラム委員会（[program2017@jfssa.jp](mailto:program2017@jfssa.jp)）までお知らせください。各種企画の詳細は、第二報でお知らせいたします。

## 3. 第11回日本統計学会春季集会のお知らせ（第二報）

中野純司（日本統計学会理事長）

青木 敏・田中研太郎・二宮嘉行（企画・行事委員会）

土谷 隆（実行委員長）・酒折文武（副実行委員長）

第11回日本統計学会春季集会を政策研究大学院大学にて開催いたします。会員の皆様による活発な議論を期待しております。プログラムは以下になりました。午前は特別セッション「Industry 4.0 時代における IoT とセンシングデータ」を行い、午後は「ランダム行列—固有値の分布論—」「実業で活用する統計学とデータサイエンス」「統計教育に関する JINSE の活動と今後の

展開」「テクノメトリックス—品質改善を实践するための統計数理—」という4つの企画セッションを2セッションずつ並行して行います。ポスターセッションでは、ポスター発表を広く募集しております。優れたポスターに対して、「優秀発表賞」と「学生優秀発表賞」を授与いたします。セッション終了後、懇親会を計画しており、授賞式も合わせて行います。会員の皆様の参加を心より

お待ちしております。

なお、本集会は、会場の都合で事前に参加登録が必要となりますのでご注意ください。参加登録の方法につきましては、このお知らせの最後をご覧ください。

## 記

**日時**：2017年3月5日（日）9：00～17：30+懇親会

**会場**：政策研究大学院大学（東京都港区六本木）

**参加費**：無料（ただし事前に参加登録が必要です。懇親会は有料です。）

## プログラム

### 【午前部】

会場：政策研究大学院大学 1階 会議室 1A, 1B, 1C

**9：30～9：40「開会式」**

開会：中野純司（日本統計学会理事長）

挨拶：岩崎学（日本統計学会会長）

**9：40～11：40「特別セッション：Industry 4.0時代におけるIoTとセンシングデータ」**

オーガナイザー：鎌倉稔成（中央大学）

**11：50～14：00「ポスターセッション（コアタイム）」（昼休み）**

会場：政策研究大学院大学 1階ホワイエ

### 【午後部】

**14：00～15：40「企画セッション1：ランダム行列一固有値の分布論」**

会場：政策研究大学院大学 1階 会議室1A, 1B

オーガナイザー：二宮嘉行（九州大学, マス・フォア・インダストリ研究所）

**14：00～15：40「企画セッション2：実業で活**

### 用する統計学とデータサイエンス」

会場：政策研究大学院大学 1階 会議室1C

オーガナイザー：佐伯論（社団法人データサイエンティスト協会, 株式会社電通）

**15：40～15：50 休憩**

**15：50～17：30「企画セッション3：統計教育に関するJINSEの活動と今後の展開」**

会場：政策研究大学院大学 1階 会議室1A, 1B

オーガナイザー：美添泰人（青山学院大学）

**15：50～17：30「企画セッション4：テクノロジー—品質改善を実践するための統計数理—」**

会場：政策研究大学院大学 1階 会議室1C

オーガナイザー：黒木学（統計数理研究所）, 安井清一（東京理科大学）

共催：一般社団法人 日本品質管理学会

**18：00～20：00「懇親会」**

会場：政策研究大学院大学 1階ラウンジ

○講演者、講演タイトル等のプログラムの詳細情報は、春季集会 Web サイト

<http://www.jss.gr.jp/convention/spring11/>

をご覧ください。

○事前参加登録、懇親会の申込み

本集会は、会場の都合上、事前の参加登録にご協力ください。春季集会 Web サイト内の参加申込ページより、2月23日（木）までにお申し込みください。懇親会の参加も、同ページよりお申し込みください。

○ポスターセッションの申込み

春季集会 Web サイト内のポスターセッション申込ページより、2月10日（金）までにお申し込みください（厳守）。ポスターセッションに関する詳細も、同ページをご覧ください。

## 4. 特集記事

### シリーズ「統計学の現状と今後」

almost magically (a.m.) に成り立つ等式

倉田 博史 (東京大学大学院総合文化研究科・教養学部)

ある文献に「よく知られる通り,  $A$  を所与の  $n \times n$  正則行列とすると,  $A$  の逆行列  $A^{-1}$  は

$$(1) \quad \text{rank} \begin{pmatrix} A & I \\ I & X \end{pmatrix} = \text{rank}(A)$$

を満たす唯一の行列  $X$  である」とあるのを見たとき, どうして成り立つのか不思議に感じて, 証明を試みるためノートを広げたのだった. 左辺の行列を

$$\begin{pmatrix} A & I \\ I & X \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} I & 0 \\ A^{-1} & I \end{pmatrix} \begin{pmatrix} A & 0 \\ 0 & X - A^{-1} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} I & A^{-1} \\ 0 & I \end{pmatrix}$$

と変形するのが定番のアプローチである. すると右辺の両端の行列が正則行列となるから

$$\text{rank} \begin{pmatrix} A & I \\ I & X \end{pmatrix} = \text{rank} \begin{pmatrix} A & 0 \\ 0 & X - A^{-1} \end{pmatrix} = \text{rank}(A) + \text{rank}(X - A^{-1})$$

が導かれ,  $X = A^{-1}$  が唯一の解であることが分かる. あっという間に証明できた. 証明を得てから再び (1) 式を見ると, 不思議さは消え, 自然な結果に見えてくる. わずか 2 行で証明できたのだから, 自明な命題と言ってもいいだろう. しかし, しばらくして忘れたころにこの式を見ると, また焦点が合わなくなって, 当初見たときの見当もつかない感じがよみがえる. トリックアートを見ているような気分である.

Fiedler and Markham (1993, *Linear Algebra and its Applications*) がその文献なのだが, そこでは行列  $A$  が正則とは限らない場合への拡張が与えられている. ただし  $A$  の逆行列  $A^{-1}$  はムーア・ペンローズ一般逆行列  $A^+$  に置き換わる. 彼らの結果の中心部分をまず述べると,  $A$  が所与の  $n \times m$  行列であるとき,  $A$  のムーア・ペンローズ一般逆行列  $A^+$  は方程式

$$\text{rank} \begin{pmatrix} A & AA^+ \\ A^+A & X \end{pmatrix} = \text{rank}(A)$$

の解  $X$  である, というものである. やや長くなるが, より正確に述べると次の通りである. 「 $A$  は所与の  $n \times m$  行列でランクが  $r$  であるとする. このとき,

$$AX = 0, \quad X = X^* = X^2, \quad \text{rank} X = m - r$$

を満たす  $X: m \times m$  と

$$YA = 0, \quad Y = Y^* = Y^2, \quad \text{rank} Y = n - r$$

を満たす  $Y: n \times n$  と

$$(2) \quad \text{rank} \begin{pmatrix} A & I - Y \\ I - X & Z \end{pmatrix} = \text{rank}(A)$$

を満たす  $Z: m \times n$  がそれぞれ唯一存在する. そしてこのとき  $Z = A^+$  であり,  $X = I - A^+A$ ,  $Y = I - AA^+$  である. 第一著者の Miroslav Fiedler は線形代数やグラフ理論などの分野の大家であり, 交流を持たれた先生も多数いらっしゃるのではないだろうか. グラフのラプラシアン固有値と連結度の関係についての研究が有名である.

さて Gross (1999, 上掲誌) は, (1) (2) 式を「ランク方程式 (rank equation)」と呼び, それらの次のような拡張を導いている. 「 $A: n \times m$ ,  $B: n \times n$ ,  $C: m \times m$  とする. また, 行列  $A$  の列ベクトルが張る部分空間 (列空間) を  $R(A)$  で表す.  $X$  を変数とする方程式

$$(3) \quad \text{rank} \begin{pmatrix} A & B \\ C & X \end{pmatrix} = \text{rank}(A)$$

が解を持つための必要十分条件は

$R(B) \subseteq R(A)$  かつ  $R(C^*) \subseteq R(A^*)$  が成り立つことであり, このとき解は  $X = CA^+B$  で与えられる. ここで, 列空間に関する条件は,

$$\text{rank} \begin{pmatrix} A & B \\ C & X \end{pmatrix} = \text{rank}(A) + \text{rank}(X - CA^+B)$$

を成り立たせるための条件である。

Gross の定理は、ランク方程式 (1) (2) 式を特殊な場合として含んでいるが、残念ながらあのトリッキーな雰囲気がない。立派だが少し退屈な「線形代数の定理」である。Fiedler and Markham を読んだときは、(1) 式の非対角の位置にある単位行列が (2) 式では直交射影行列  $AA^+$  と  $A^+A$  になっていることに何やら深さを感じて面白かったのだが、(3) ではよくある空間の包含関係に置き換えられている……。知らない道を気分良く散歩していたら、いきなりいつもの駅前通りに出てしまった気分（「何だここかよ」）だ。

しかし、Gross は続いて「逆問題」を提案している。すなわち「 $A$  が与えられたとき、方程式 (3) が唯一つの解  $X=A^+$  を持つための  $B$  と  $C$  の範囲は何か」という問題である。駅前通りには駅前通りの面白さがある。彼の答は原論文を参照して下さい。

私は著者の Jürgen Gross 氏にはお会いしたことはないのだが、先行研究を漁るとき、データベースの表示の中に Gross 氏の論文を見つけるとほぼ必ずそれから読み始める。研究の背景や意義の説明、先行研究の紹介、主結果の提示、どれをとっても氏の論文は群を抜いて分かりやすい。線形代数の一部の分野では、先行研究が錯綜していてオリジナリティの所在が把握しづらいことがたまにあるが、その分野で Gross 氏が論文を書いたらその第 1 節を読めば頭の中が整理される。それでいて、例えば上に引用した 1999 年の論文は、定理が 2 つあるのに僅か 4 頁という簡潔さなのである。

その後 Zheng and Bapat (2004, Applied Mathematics and Computation) は、ムーア・ペンローズ一般逆行列だけでなく、より広い一般逆行列のクラスを特徴付けるランク方程式を導いている。いまさらだが、一般逆行列は  $AXA=A$  で定義される。この定義式において  $A$  と  $X$  の役割を入れ替えた  $XAX=X$  を満足する  $X$  を outer inverse という。ム

ーア・ペンローズ一般逆行列も 1 つの outer inverse である。彼らはまず「 $A$  を所与の  $n \times m$  行列としたとき、 $X$  が  $A$  の 1 つの outer inverse であるための必要十分条件は  $X$  が

$$(4) \quad \text{rank} \begin{pmatrix} A & AX \\ XA & X \end{pmatrix} = \text{rank}(A)$$

の解となることである」ことを示す。証明は本稿冒頭の変形と同様にすればすぐできる。(2) 式と同様に、非対角の位置の行列  $AX$  と  $XA$  が射影行列になっている。他のランク方程式と異なる点は、この射影行列に変数  $X$  が含まれる点である。他の式ではこれらは所与とみることができた。そのため（かどうか断言できないが）、Zhang and Bapat では非対角の部分に所与の射影行列が置かれたランク方程式（と逆問題）を考察している。その結果が彼らの主結果なのだが、書くと会報エッセイではなくなってしまうので省略する。

第二著者の Ravindra B. Bapat 先生はインド統計研究所 (ISI) の教授で、ご専門は線形代数、特にグラフ論的行列論である。統計学に関する研究もされていて、Sankhya や Communications in Statistics などに論文をお持ちである。大変生産的な方で MathSciNet で調べると論文数は 150 近い。さらにすごいのは 800 近い引用文献数である。これは納得で、私の狭い研究テーマの幾つかで検索をかけても Bapat 先生の論文がヒットし（現に“rank equation”でもヒットしている！）、それらは面白そうで読まずにはいられない。読めばこちらが影響されて研究内容が近づき、更に読むことになる。そして先生の重力圏内に入るのである。学会発表でコメントを頂いたことがきっかけで、先生には一昨年と昨年の二度それぞれ 2 週間ほど私の研究室を訪問して頂き、距離行列について共同研究した。

大変無口な方で、研究が終わればこちらから話しかけない限り殆ど何もおっしゃらない。渋谷の大交差点にお連れしても、鎌倉の古寺をご案内しても楽しそうな顔をされない。最初は私のホストぶりが悪いのかと冷や汗をかいていたのだが、先生の 60 歳を祝う記念論文集に、ISI に職を得て間

もない頃に相部屋だった同僚の回想エッセイがあり、彼はとにかく無口だった—毎朝9時に出勤して来て、無言のまま席に着き研究を始める。11時のコーヒープレイクの時間になるとやはり無言のままこちらを向く。それを合図に二人連れ立って食堂に行く—とあったのを読んで、何だ若いときからこの調子だったのかと胸を撫でおろした。しかし研究上の議論になると鋭い正確な指摘が次々と来る。それは渋谷の雑踏を歩きながらでも鎌倉行き混んだ電車の中でも変わらない。私は紙に書かないと分からないので反応が遅れがちであったから、先生も私を無口と思っていただろう。

先生の近著に“Linear Algebra and Linear Models”

と“Graphs and Matrices”という教科書がある（それぞれ3版と2版）。前者の最後の章は、“Additional Exercises on Rank”というタイトルが付いていて、行列のランクに関する練習問題が77題並んでいるだけというものである。一見風変わりだが、一般逆行列を学ぶとランクに関する計算トリックを多く知っていることが如何に大事か痛感するので、さすがBapat先生だなと感心する。77題の中にランク方程式も含まれている（問29）。しかし、(1)式の形ではなく、(1)式の右辺を $n$ としたものである。こうすると普通の練習問題になる。

## シリーズ「研究滞在記」

### スタンフォード滞在記

橋本 真太郎（広島大学）

私は2016年1月から約一か月間、カリフォルニア州にあるスタンフォード大学統計学部に客員研究員として行ってきました。この「スタンフォード滞在記」は過去にも本会報に複数の先生の記事があり、私自身もスタンフォードに行く前に読ませていただき、大変参考になりました。一ヶ月間という短い期間でしたが、大変濃密な時間を過ごすことができたので、滞在中の生活・大学の様子を紹介することで、今後海外留学をする若手研究者およびスタンフォード大学で研究滞在中をしたいと思っている方々の参考になれば幸いです。

スタンフォード大学は、サンフランシスコ国際空港からBART, Caltrainという2つの列車を乗り継ぎ1時間ほどの所にあります。パロアルトという駅で降りると、目の前にはスタンフォード大学の広大な敷地が広がります。そこは単一キャンパスとしては現在勤務している広島大学よりも、出身大学である筑波大学よりもはるかに広く、ベイエリアの一つの観光スポットにもなっているようです。また、大学周辺一帯はシリコンバレーと呼ばれ、世界をリードする大企業であるGoogle

やAppleなどの本社も近くにあるなど、研究をするには絶好の場所であると思いました。統計学の建物 Sequoia Hall は大学のほぼ中心部にあり、2階建てのそれほど大きくない建物です。到着すると、私が研究滞在中であるよう招聘していただいた受入教員のEfron教授が温かく迎え入れてくれました。私が到着した日はたまたま夜に学科のパーティーが開かれており、初日から様々な先生に挨拶することができたことは幸運でした。中国人はたくさんいますが、日本人が来ることは珍しいようで、色々な人が話しかけてくれました。

まず、生活について簡単に書かせていただきます。今回の滞在は一ヶ月であり、アパート等を借りるにも短すぎたため大学周辺の宿泊施設を利用しました。スティーブ・ジョブズの実家もあるこのパロアルトという街は高級住宅や高級ブランド店が建ち並び、物価は他に比べるとかなり高めです。ただ、治安の良さは抜群であるため特に生活で困ることもなく、物価を除けばとても過ごしやすい街でした。さらに、私が滞在していた時期には、アメリカ最大のスポーツイベントであるアメ

リカンフットボールの大会「スーパーボウル」がサンフランシスコで開催されており、大学周辺もかなり賑わっていたのが思い出されます。

大学での生活は、大きく分けて研究に関するディスカッションと授業の聴講、セミナーへの参加といった感じでした。スタンフォード大学は統計学の世界的なメッカであり、常に世界中から多くの研究者が来ているためビジター用の居室は常に満室です。同じ居室のビジター同士でも研究分野は異なりますが、空き時間やランチタイムを利用して情報交換やお互いの研究の話をしました。また、私の居室の目の前には名誉教授の居室が並んでおり、T.W. Anderson や I. Olkin, J.H. Friedman らを日常的に見かけることがあり、ここでしか味わえない独特の雰囲気を感じるとともに統計学部が積み上げてきた歴史と伝統をしみじみと感じさせられました。院生もたくさんおり、毎日いくつもの個別のセミナーが行われているためそちらに顔を出したりもしましたが、さすが世界トップクラスの頭脳集団だけあってかなりハイレベルなセミナーをしていました。どの学生もビジター慣れしており、気軽に声をかけてくれたり、食事にも誘ってくれたので環境にはすぐに慣れることができました。ここでは指導教員という制度はありませんが、日本でいう研究室やゼミといった考え方はあまりないため、学生は共通の興味を持つ学生や教員と積極的かつ自由に共同研究をしているようです。教員の居室は在室中は部屋のドアは開いたままになっていることが多く、学生が気軽に教員の部屋に入出入りして、研究の話をしているところも日本ではあまりないことであり、とても新鮮に感じました。

せっかくの機会だと思い、空き時間を見つけて大学院生向けの授業も聴講しました。ここでは年に4回のコースが開講されますが、私の滞在中はwinter courseが開講されており、P. Diaconis と W.H. Wong によるベイズ統計学と、T. Hastie による機械学習の授業を聴講しました。前者は黒板を使ったいわゆる伝統的な数学の授業方法で行われており、Diaconis の独特のジェスチャーとユニー

クな語り口調はまるでショーを見ているかのような気持ちにさせてくれました。一方で、Hastie の講義は、彼らの著書「The Element of Statistical Learning」をベースに最新的话题を補いながら展開されており、スパース推定が主なテーマです。この講義が行われていた大教室は統計学部の学生以外にも生物統計学や計量経済学の学生、さらには他学部の教員まで多くの人で埋まり、この研究分野の注目度を象徴しているように思いました。授業は週に2, 3回行われるため、前に習った内容を忘れる前に次の授業がやってくるということも魅力的であり、学生の理解の助けにもなっていると思えました。講義中は学生からの質問がとて多く、少しでもわからなければ何でも質問しているのが印象的です。その結果、授業中の学生の質問から共同研究が生まれることも少なくないようです。

スタンフォード大学統計学部では、毎週のように外部や内部から講演者を招いてセミナーが行われています。私は月曜日の確率論セミナーと火曜日の統計セミナーに参加していました。確率論セミナーは数学的内容が多い一方で、統計セミナーは応用を見据えた、実データに基づく内容が多いように感じました。統計セミナーには、統計学部のスタッフは原則全員参加するため、セミナーの行われる教室に行くと B. Efron をはじめ、T. Hastie, R. Tibshirani, E. Candes, J. Taylor ら著名な先生が勢揃いし、講演に関する活発な議論が行われます。他にも水曜日には金融工学セミナー、木曜日には生物統計学セミナーもあり、数理統計の枠にとらわれず幅広い分野の研究者との交流が盛んに行われているあたりも、他分野との共同研究の多さの要因であると感じます。また、セミナー前には必ずティータイムがあり、教員、ビジター、学生が和気藹々と過ごす時間が私はとても好きでした。さらに、滞在期間中にはバレンタインデーもあり、それぞれがお菓子や料理を持ち合わせたパーティーも開かれ、研究の話以外の話でも大いに盛り上がりました。個々の能力だけでなく、学科内の人々の交流の多さも優れた業績を出し続



けることができる理由であると思いました。

最後になりましたが、今回の研究滞在を快く許可していただき、滞在費の支援もしていただいた広島大学統計科学研究拠点とそのメンバーの方々に感謝申し上げます。また、スタンフォード大学

統計学部でお世話になった受入教員の B. Efron 教授、学科長の G. Walther 教授、受入先を紹介してくださった筑波大学の赤平昌文先生に深く感謝します。今回の経験を今後の研究・教育に存分に活かせるよう努力していきたいと思います。

## 5. 第65回全国統計大会の報告

岩崎 学（日本統計学会会長）

統計の日（10月18日）の記念行事の一環として、第66回全国統計大会が11月16日（水）の午後、東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。この大会では、長年各種統計調査の実施に関して顕著な功績のあった統計功労者に対する総務大臣賞が高市早苗総務大臣から直接手渡され、各大臣表彰が各省の担当者から受賞者に授与された。さらに、「統計の日」標語入選者に対する表彰、大内賞の授与、統計グラフ全国コンクール特選受賞者に対する表彰も挙行された。また、2016年度から「地方公共団体における統計利活用表彰」が新設され、第1回の総務大臣賞として佐賀県、統計局長賞として京都市、特別賞として茨城県、京都府、福岡市が表彰された。

大内賞は、戦後の我が国の統計の再建に尽力された大内兵衛博士の業績を記念して1953年度に設けられたものであり、2016年度は、日本統計学会会員の田中豊氏を始め、近藤登雄氏ほか2名が表彰された。統計グラフ全国コンクールは、2016年度に第64回を数える歴史あるコンクールで、全6部門に全国から26,284作品の応募があり、最終審査会による最終審査の結果、総務大臣賞、文部科学大臣賞などに加え、日本統計学会会長賞、日本品質管理学会賞がそれぞれ授与された。

日本統計学会会長賞には、大阪府守口市守口小学校1年の松岡千穂さんの「スーパーのやさいはどこからきたの？」が選ばれ、大会当日に岩崎が賞状を授与した（写真は受賞者の松岡千穂さんと岩崎の記念撮影）。受賞作品に対して、コンクー



ルの渡辺美智子審査委員長から「近くに畑もないのに、なぜスーパーに野菜がならんでいるの？小学生らしい素朴な疑問から、すばらしい統計情報地図、GISができあがりました。10店舗以上もまわって、野菜の種類と産地の統計をとった作者の千穂さんの作品は、誰がみても一目で集まってくる野菜の産地と量がわかります。日本統計学会が認めた最年少の統計家の誕生です。」との言葉が寄せられた。

表彰式の後に、統計・データサイエンス活用セミナーが開催され、渡辺美智子氏の司会の下、第1回地方公共団体における統計利活用表彰を受賞した佐賀県および京都市の担当者の方々、および統計グラフ全国コンクールの受賞者による記念講演が行われた。

統計調査と統計の利活用の重要性を再認識させる盛大な大会であった。

## 6. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集

中野 純司（日本統計学会理事長）

日本統計学会制定の以下の各賞の受賞候補者の推薦を募集します。

- 第22回 日本統計学会賞
- 第13回 日本統計学会統計活動賞
- 第13回 日本統計学会統計教育賞
- 第12回 日本統計学会研究業績賞
- 第10回 日本統計学会出版賞

いずれも推薦期間は2016年12月19日（月）から2017年3月31日（金）と致します。推薦書の書式は全て学会ホームページ

([http://www.jss.gr.jp/ja/society/prize\\_format.html](http://www.jss.gr.jp/ja/society/prize_format.html))からダウンロード可能です。推薦書は各賞とも全て以下への郵送をお願いします。封筒に「～賞推薦書在中」と朱書きして下さい。不明な点は学会事務担当者にご照会下さい。

〔宛先・照会先〕

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6

能楽書林ビル5F

公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会

TEL & FAX : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

以下に各賞共通の規程並びに各賞個別の概要をお示しします。

### ○各賞共通

#### 〔受賞対象〕

各賞受賞の対象となる者は、その年齢、性別、国籍、日本統計学会の会員・非会員の別を問わない。

#### 〔推薦方法〕

推薦者は各賞所定の書式に従って推薦する。各賞受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。

#### 〔選考方法〕

各賞受賞対象者の選考は、日本統計学会に設けた各賞の選考委員会が、会員の推薦を受けて実施する。

#### 〔発表〕

各選考委員会は選考結果を日本統計学会代議員会に報告し、大会期間中に授賞式を行う。

### ○各賞の概要

#### 日本統計学会賞

#### 〔趣旨〕

統計学の研究および普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

#### 〔対象範囲〕

対象とする分野は次のとおりとし、全体として年間3名程度に授与する。

理論：統計学の理論の発展に多大の貢献のあった者

実証・応用・計算：この分野は以下のような内容を含む。

(1) 人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。

(2) 医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。

(3) 統計計算では、統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。

(4) 応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。

その他：理論・実証・応用などを含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

#### 〔推薦・選考方法〕

推薦者は所定の書式にしたがって、対象範囲に

定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

#### [賞の内容]

賞状および記念品などの副賞を授与する。

### 日本統計学会統計活動賞

#### [趣旨]

研究や教育に限らず、広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する。

#### [対象範囲]

授賞の対象は、次に掲げる分野の活動である。

- (1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化（統計関連領域の研究・教育組織の設立、実務家へのサポート、統計に関する企画・推進等）。
- (2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア、データ・ベースの開発及び支援等）。
- (3) 新たな研究領域・分野の開拓。
- (4) 新たな統計の作成（個人、グループ・団体等による統計の作成と継続、及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

#### [選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、学会活動特別委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

#### [賞の内容]

受賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には、賞状及び賞牌を授与する。

### 日本統計学会統計教育賞

#### [趣旨]

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を

挙げた個人又は団体を顕彰し、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献することを目的とする。

#### [対象範囲]

授賞の対象となる者は、次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とする。

- (1) 統計教育に関する著書、論文
- (2) 統計教育の実践
- (3) 統計教育に用いるソフトウェア、テキスト、教材等の開発
- (4) 統計の普及、啓蒙
- (5) その他統計教育の発展に寄与する活動

#### [選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、統計教育委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

#### [賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

### 日本統計学会研究業績賞

#### [趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた研究業績をあげた個人を顕彰し、わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

#### [対象範囲]

過去3年程度に日本統計学会誌あるいは内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文を審査対象とする。受賞件数は毎年2件以内とする。

#### [選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

#### [賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

## 日本統計学会出版賞

### [趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた図書(研究、教育あるいは啓蒙)を出版した著者、訳者あるいは出版社を顕彰し、わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

### [対象範囲]

審査の対象は、次に挙げるいずれかの要件を満たすものとする。

(1) 著者、編者あるいは訳者として、過去5年程度に刊行された統計学に関する研究、教育あるいは啓蒙上の図書。

(2) 過去5年程度に刊行された統計学に関する出版企画。

受賞件数は毎年2件以内とする。

### [選考方法]

選考委員の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

### [賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

## 7. 理事会・委員会報告 (2016年12月17日開催)

### 一般社団法人 日本統計学会 理事会議事録

日時：2016年12月17日(土曜日) 午後0時00分～  
午後1時00分

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス会議室

理事の総数 13名 出席理事の数 9名  
監事の総数 3名 出席監事の数 2名

出席者：

理事：岩崎学会長、中野純司理事長、間野修平(庶務)、村上秀俊(庶務)、山下智志(会計)、青木敏(大会・企画・行事)、塚原英敦(国際)、中谷朋昭(国際)、瀬尾隆(渉外)(以上9名、カッコ内は役割分担)

監事：国友直人、田中勝人

#### 第1議案 常設委員会における委員の交代について

中野理事長より、資料に基づき、庶務委員会について説明があり、審議の結果、庶務委員会における委員の交代が承認された。

庶務委員

酒折文武委員より村上秀俊委員に交代(2016.7.13付け)

#### 第2議案 常設委員会における委員の追加について

中野理事長より、資料に基づき、国際関係委員会および渉外委員会について説明があり、審議の結果、国際関係委員会および渉外委員会における委員の追加が承認された。

・国際関係委員会

中谷朋昭委員(2016.7.13付け)

・渉外委員会

稲葉由之委員、鎌倉稔成委員、西郷浩委員、酒折文武委員(2016.12.17付け)

#### 第3議案 臨時委員会における委員の交代について

中野理事長より、資料に基づき、質保証委員会、基準委員会、出版企画委員会、産学連携推進委員会、JSS-Springer 編集委員会、MOOC 委員会について説明があり、審議の結果、各委員会における委員の交代が承認された。

・質保証委員会(任期2017.1.1~2017.12.31)：

竹村彰通(委員長)、岩崎学(副委員長)、今泉忠、田村義保、舟岡史雄、渡辺美智子、山本拓、伊藤彰彦、田栗正章

・基準委員会(任期2017.1.1~2017.12.31)：

田栗正章(委員長)、今泉忠、岩崎学、岡太彬訓、折笠秀樹、竹村彰通、田村義保、椿広計、西村圭一、林篤裕、水田正弘、山口和範、渡辺美智子、美添泰人、藤井良宜

・出版企画委員会(任期2017.1.1~2017.12.31)：

鎌倉稔成(委員長)、岩崎学、国友直人、西郷浩、竹村彰通、田中豊、矢島美寛、酒折文武、中野純司

・産学連携推進委員会(任期2017.1.1~2017.12.31)：

椿広計(委員長)、大野忠士、鎌倉稔成、鈴木督久、西井龍映、舟岡史雄、安川武彦、中野純司

・JSS-Springer 編集委員会(任期なし・2016.9.4吉田朋

広委員から矢島美寛委員、大森裕浩委員に交代)：

国友直人(委員長)、竹村彰通(副委員長)、北川源四郎、樋口知之、狩野裕、濱崎俊光、松井茂之、岩崎学、矢島美寛、大森裕浩

・MOOC委員会(任期なし・2016.12.17松田安昌委員を追加)：

佐藤整尚(委員長)、酒折文武、下川敏雄、竹村彰通、中山厚穂、渡辺美智子、松田安昌

**第4議案** 学会賞各賞の候補者推薦と選考委員について

中野理事長より、資料に基づき、学会賞各賞の候補者推薦と選考委員について説明がなされ、その可否を理事に諮ったところ、全会一致で承認され、学会賞各賞の候補者推薦を開始することとした。尚、推薦受付期間は2016年12月19日より2017年3月31日までとし、会長が推薦する選考委員は次回社員総会において承認を得ることとした。

**第5議案** 代議員選挙規程の変更について

中野理事長より、代議員選挙規程第2条3項から「3期連続して代議員を務めている会員の氏名を明記する」を削除する議案を次回社員総会に提案する旨が述べられ、全会一致で承認された。

**第6議案** 会員の入退会について

中野理事長より、回覧資料に基づき、入退会者が紹介され、承認された。

**第7議案** 社員総会召集について

岩崎会長により、社員総会を以下のとおり招集する旨が述べられ、全会一致で承認された。

1. 日時 2017年3月4日(土曜日)午後6時10分から
2. 場所 政策研究大学院大学 1階 会議室1A
3. 会議の目的事項
  - (1) 社員総会における通常の審議
  - (2) 代議員選挙規程の変更について
  - (3) 会員種別の追加と会費の変更について

**第8議案** 被選代議員会招集について

岩崎会長により、被選代議員会を以下のとおり招集する旨が述べられ、全会一致で承認された。

1. 日時 2017年3月4日(土曜日)臨時社員総会終了後午後7時30分ごろから
2. 場所 政策研究大学院大学 1階 会議室1A
3. 会議の目的事項
  - (1) 会長候補者の選出
  - (2) 被選理事長の選出

## 一般社団法人 日本統計学会 委員会議事録

日時：2016年12月17日(土曜日)午後1時00分～  
午後2時30分

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス会議室

出席：理事9名、監事2名 計11名

岩崎学会長、中野純司理事長、間野修平、村上秀俊、山下智志、青木敏、塚原英敦、中谷朋昭、瀬尾隆、国友直人(監事)、田中勝人(監事)

<報告事項>

1. 欧文誌編集委員会

倉田委員長の代理として、間野庶務委員長より、第46巻第2号の編集作業の進捗状況が報告された。

2. 和文誌編集委員会

笛田委員長の代理として、間野庶務委員長より、第46巻1号の編集作業の進捗状況が報告された。

3. 大会委員会

報告事項なし。

4. 企画・行事委員会

青木委員長より、資料に基づき、第11回日本統計学会春季集会に関する報告があった。

5. 庶務委員会

・間野委員長より、資料に基づき、代議員選挙の結果が報告された。

・間野委員長より、理事会開催に伴う旅費の申請が事務局にあった場合、事務局から会計理事に報告し、会計理事が金額を提示してから金額が振り込まれることにしたことが報告された。

6. 広報委員会

報告事項なし。

7. 国際関係委員会

①塚原委員長より、資料に基づき、2016年度のCSA-KSS-JSS Joint International Session, Wakimoto Memorial Session, ICSA International Conferenceでの国際セッションについて報告された。

②2017 the Chinese Institute of Probability and Statistics (CIPS) Annual Meeting conjunction with the 26th South Taiwan Statistics Conferenceについて報告があった。

8. 渉外委員会

照井委員長の代理として、村上庶務委員より、資料に基づき、平成29年度科研費の申請について報告があった。

瀬尾委員より、2016年11月27日に実施された統計検定について報告および委員長が交代したことの報告が

あった。

#### 9. その他

中野理事長より、資料に基づき、学会組織特別委員会と学会活動特別委員会の検討事項について報告がなされた。

間野庶務委員長より、資料に基づき、年会費のオンライン支払調査について報告がなされた。

#### <審議事項>

##### 1. 欧文誌編集委員会

審議事項なし。

##### 2. 和文誌編集委員会

審議事項なし。

##### 3. 大会委員会

審議事項なし。

##### 4. 企画・行事委員会

審議事項なし。

##### 5. 庶務委員会

審議事項なし。

##### 6. 広報委員会

森委員長の代理として、間野庶務委員長より、資料に基づき、一般社団法人日本統計学会のウェブサイトに記載されている「学会の歴史」、「学会について」、「学会活動」の項目の改善案について説明があり、審議の結果、ウェブサイトを修正することとした。

##### 7. 国際関係委員会

審議事項なし。

##### 8. 渉外委員会

審議事項なし。

##### 9. その他

なし。

## 8. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

・景山三平監修，鎌倉稔成編修，神保雅一，竹田裕一著、『理工系のための統計入門』，実教出版，2016年10月，2200円＋税

**内容紹介：**本シリーズは全15章からなり，大学1－2年，通年の授業に対応した内容になっています。各章はKey WORD，目的，課題と明確にどのような問題を解決すべきかを明快に示しています。また，読者が統計学に興味を持ってもらえそ

うな，面白そうな内容をコラムとして掲載しています。

・Kohei Adachi, 『Matrix-Based Introduction to Multivariate Data Analysis』, Springer, 2016年10月, 11,660円＋税

**内容紹介：**行列を知らない読者も，行列演算とともに多変量データ解析法を学習できることを目指した英文テキストであり，付録には，標準的なトレース関数の最大化・二乗誤差の最小化に関する行列の解がまとめられている

## 9. 学会事務局から

### 学会費払込のお願い

2016年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上，こちらをご活用下さい。

### 学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに，氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6

能楽書林ビル5F

公益財団法人 統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

## 訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

林 英機 会員

山内 保文 会員

和合 肇 会員

## 入会承認

伊高静, 内山仁, 川村高弘, 清水順一郎, 園田桂子, 高田聖治, 田中勇輔, 中北誠, 成田雅昭, 松本大吾, 丸尾和司, 山崎昌彦, 山田庸, 陸超  
(敬称略)

## 退会承認

荒宏視, 氏家勝巳, 大隅昇, 大西真一, 垣花京子, 小村賢二, 近藤健司, 下野寿之, 高橋久尚, 根岸紳, 野間口謙太郎, 馬場栄治, 馬場恵美子, 伴金美, 東敏文, 藤山俊文, 三輪哲, 森泉陽子, 山田満, 山本祥武, 涌井等, 渡辺秀一 (敬称略)

## 現在の会員数 (2017年1月10日)

名誉会員	16名
正会員	1,424名
学生会員	77名
総計	1,517名
賛助会員	19法人
団体会員	7団体

## 2016年度統計関連学会連合大会の報告の修正

2016年10月30日発行の日本統計学会会報 No.169に掲載された「2016年度統計関連学会連合大会の報告」において、大会参加者の人数の訂正があった旨、連合大会運営委員長より連絡がありました。最終的な参加人数の集計値は次のとおりです。

- ・チュートリアル：252 (修正なし)
- ・市民講演会：197 (修正なし)
- ・本大会：816→835
- ・延べ参加者数：1,265→1,284

なお、大会報告の修正版は、連合大会のウェブページで

[http://www.jfssa.jp/taikai/2016/pdf/2016report\\_161212.pdf](http://www.jfssa.jp/taikai/2016/pdf/2016report_161212.pdf)

として公開されています。

## 10. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

- ・来日統計学者の紹介  
訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。
- ・博士論文・修士論文の紹介  
(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月をお知らせください。
- ・求人案内 (教員公募など)
- ・研究集会案内

- ・新刊紹介  
著者名、書名、出版社、税込価格、出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。
- ・会員活動紹介 (叙勲・受章、各種受賞等)  
できるだけe-mailによる投稿、もしくは、文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

### 原稿送付先：

〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1  
岡山理科大学 総合情報学部 社会情報学科

森 裕一 宛

E-mail : koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL :  
<http://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL :  
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL :  
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス :  
[meibo@jss.gr.jp](mailto:meibo@jss.gr.jp)
- 広報連絡用 e-mail アドレス :  
[koho@jss.gr.jp](mailto:koho@jss.gr.jp)
- その他連絡用 e-mail アドレス :  
[shom@jss.gr.jp](mailto:shom@jss.gr.jp)